

関係各位

国際審判員 中島大祐  
(国際委員 兼 審判スタッフ)

**【大会参加報告】 2016/4/15～17 World Rowing Cup I (Varese, Italy)**

2016年4月15日(金)～17日(日)にイタリア北西端 Lombardia 州 Varese 県にある Varese 湖で開催された FISA 主催の World Rowing Cup I、以下「WRC1」)に審判として参加しましたので以下の通り報告します。派遣して頂きました日本ボート協会の関係各位にこの場を借りて御礼申し上げます。報告書の提出が遅れ申し訳ありません。

1. はじめに

- (1) 2011年8月に FISA 審判員資格を取得後、2014年5月の Asian Rowing Cup I (戸田)、2015年7月の Asian Rowing Junior Championship (中国・武漢)で審判を務めたが、今回、FISA 主催大会で初めて審判を務めた。
- (2) 昨年までに ARF 主催大会を2回経験したが、FISA 大会に臨んでみて改めて新たな発見があったので、その辺りを報告したいと思う。
- (3) また 2020 東京オリンピック・パラリンピックを控え、審判用具についてできるだけ詳しく報告したい。(経験できなかった部署もわかる範囲で記述する。)
- (4) 私自身の失敗やヒヤリハットについては正直に記載し、皆さまの参考にしていただければと期待する。

2. 大会概要

- (1) 大会日程

	午前	午後
2016年 4月14日(木)		代表者会議、抽選、審判会議
4月15日(金) 予選		敗者復活
4月16日(土) 敗者復活、D 決勝、C 決勝		敗者復活、準決勝
4月17日(日) B 決勝、A 決勝		
- (2) 種目

男子オープン	1x、2-、2x、4-、4x、8+
男子軽量級	1x、2x
女子オープン	1x、2-、2x、4-、4x、8+
女子軽量級	1x、2-、2x、4-
- (3) 参加者  
選手 530 名、参加 47 ヶ国 (何れもプログラム記載の内容)
- (4) 開催地  
イタリア北西端 Lombardia 州 Varese 県にある Varese 湖。Milano の Malpensa 空港から車で約 45 分の場所にある。宿泊先の Ata Hotel Varese は大会会場からシャトルバスで約 15 分の場所。
- (5) コース概要  
約 15km<sup>2</sup> ある Varese 湖の一部をコースとして使用しており、Start Tower 及び Aligners Hut は、岸から遠く、水中に足場を固定して立っている。

### 3. 審判員

#### (1) 部署別人数及び補助員（含む NTO）業務

ITO 審判員は全部で 18 名。審判長は判定部署に常駐、Athletes Weighing は Boats Weighing と兼務であった。補助員（NTO 又はボランティア）は、カタマラン操縦者（服装自由）を除き、揃いの濃紺ポロシャツを着用し、ズボンはジーンズ等、自由であった。（降雨時は濃紺のウインドブレーカーを着用。）因みに計時の Swiss Timing 社は自社の濃紺ポロシャツを着用。

部署	審判人数	補助員（NTO 又はボランティア）業務	補助員人数
President of Jury	1 名	—	—
Starter	1 名	—	—
Assistant Starter	1 名	—	—
Judge at Start	1 名	Aligner	1 名
Resp. Judge at Finish	1 名	写真判定 Start・Finish ボタン操作	2 名
Judge at Finish	1 名	通過順ボタン操作	1 名
Umpire (6)	6 名	カタマラン操縦	6 名
Resp. CC	1 名	受付、Bow Number・GPS 交付	8 名
CC Out pontoon	2 名	Photo book との照合、栈橋係	2+4 名
CC In pontoon	2 名	Boat Weighing への誘導、栈橋係	3+4 名
Boats Weighing	1 名	艇内チェック補助	2 名
Athletes Weighing	(兼務)	(未確認)	(未確認)
合計	18 名		

### 4. 審判各部署の業務・設備等

各部署の業務、設備、運営等は以下の通り。

#### (1) 発艇

（発艇部署には配置されなかったが、主審業務の合間に発艇台に上り施設・設備を確認した。）

- ・ Starter の業務：呼び込み、発艇号令、水面監視。
- ・ Assistant Starter の業務：呼び込み補助。
- ・ 発艇塔：2 階建の水上固定型（常設）。審判艇等で渡してもらう必要あり。2 階には審判 2 名以外は ITO 1 名（見学時にいたのは審判委員会の Mr.Vladimir Meglic (SLO)）のみ。1 階には TV クルーが 8 名ほどいた。尚、1 階にトイレがあり、主審も利用していた。
- ・ 用具：発艇塔 2 階には、Swiss Timing 社製の光発艇操作盤、マイク、黄色回転灯（2 分前に点灯）等があり、スタンバイとして赤旗、鐘、ハンドマイクもあった。
- ・ 光発艇：各レーンの発艇ポンツーンに赤青の信号機が設置されている。コース中央の 3 レーンには発艇員モニター用の信号機が発艇塔に向けてもう 1 台設置されている。
- ・ スタートシステム：本大会ではスタートシステム（自動発艇装置 = Alignment control mechanism）は使用していなかった。

#### (2) 線審

（線審部署に配置されず、Aligners Hut にも上がらなかったが、線審に配置された他の審判から聴取した内容。）

- ・ 艇揃え業務：NTO の Aligner が Boat Holder に無線で指示を出す。Boat Holder は無線をイヤホンで聞き、ポンツーンを前後させる。（この会場ではポンツーンの付け根（固定部分の縁）に腰掛けている Boat Holder が踵でポンツーンを前後させていた。）Aligner が艇揃えを継続し続け

ていても、線審は艇首が揃ったと判断したら（白旗を揚げる代わりに）白ランプ点灯ボタンを押す。（発艇は手元にある光発艇操作盤の白ランプ点灯により艇が揃ったことを認識する。）

・フォルススタート判定業務：本大会では自動発艇装置（スタートシステム）を使用していなかったためフォルススタートが発生する可能性があった。線審は発艇線上を映し出しているモニター画面を凝視（実際の発艇線は見えない）。発艇が光発艇装置の発艇ボタンを押すと、モニター画面がフリーズする（英語：Freeze frame facility）。フォルススタートと判断した場合、線審は即座に光発艇操作盤のフォルススタートボタンを押す。光発艇信号の赤ランプが点滅し、ブザー断続音になる。（今大会でフォルススタートはなかった模様。）

<発艇台（正面）>

（主審から振り向いて撮影）



<発艇台からの眺め>

（マイク越しに線審小屋が見える）



<光発艇操作盤>

（線審の操作で白ランプが点灯）



<黄色回転灯>

（2分前に発艇が ON にする）



<線審小屋>

（発艇とはブリッジで接続）



<光発艇信号>

（発艇モニター用が3レーン用の隣に）

### (3) 主審

・Zonal Umpire：Final A は元々レース間隔が十分確保されている為、通常の追行方式としたが、Final A 以外のレース（大会中の殆どのレース）は、レース間隔を原則 5 分間とし、Zonal Umpire とした。待機地点は、U1 から U6 の順で、150m、450m、800m、1150m、1400m、1850m の対岸コース外。各主審は、自分が待機している地点（例：U1 なら 150m）を全クルーが通過した直後にコース中央まで速やかに移動、次の主審が待機している距離（450m）までを「その地点で」遠くから注視する。次の主審（U2）がコース中央に向けて動き出したら、自分（U1）はコース外の待機位置に戻る。自分がコース中央にいる間にレーン侵害、接触・妨害等が発生すれば（または発生する虞があれば）その時点から通常追行に切り替え、その後は主審同士で相互にポジションを入れ替える。（今回の大会ではそのような事態は発生しなかった模様。）なお初日は勘違いをして 300m ほど追行する主審がいたが（例：U1 が 150m から 450m まで追行してコース外に出て 150m に戻る）これは誤りであると審判委員長の Mr. Patrick から注意があった。

・操縦者：地元のボート関係者。審判資格は持っていなかった模様。英語が話せる人と話せない人がいた。

・用具：白旗、赤旗、鐘、ハンドマイク（小型）。ハンドマイクは出力 10w 未満と思われ、50m 程度離れると声が届かなかった。旗は大きさ、柄の材質等がバラバラで使いづらそうだった。早い者勝ちだと思い、自分が主審の時は使いやすそうなものを先に確保した。

(4) 判定

・ Judge at Finish の業務：決勝線上の階段状の台の 2 段目に座り、各クルーが通過する瞬間に通過順を「2! 3! 5! 4! 1! 6!」のように大声で叫ぶ。日本での「テ!」の代わりにレーン No. を叫べば良いと思っけていても、最初の 2~3 レースはうまく叫ぶことができず、近くに座っていた Patrick 審判委員長から「それでは駄目だ!」と言われてしまった。また主審が白旗を揚げたら White Flag と叫ぶと共に、白ランプを点滅させ（白旗を揚げる代わり）主審に知らせる。

・ Responsible Judge at Finish の業務：写真判定装置の PC ソフトは JARA が戸田で保有しているものと同じ。Swiss Timing 社のオペレーターが（赤いカーソルをバウボール先端に合わせ、レーン番号を入力することで）モニター画面上の着順を素早く次々と確定していく。Responsible Judge at Finish は、同じ PC に繋がっている別のモニター画面に向かって座り（決勝線は見えない）オペレーターの操作過程を確認した上で、Swiss Timing が印刷して手渡してくれる Result Sheet の内容を確認の上でサインをして「Race 15 (Fifteen)、Official!」と叫ぶ。

・ NTO の業務：1 人目の補助員は、計時の机に座り、発艇号令をヘッドホンで聞き、写真判定装置のスタートボタンを操作する。2 人目は、決勝線上の 3 段目（JaF 後方）に座り、写真判定装置のフィニッシュボタンを操作（長押し）する。3 人目は、1 段目（JaF 前方）に座り、JaF が通過順を叫ぶ度に端末（20cm 四方の箱）にあるレーン No. と同じ番号のボタンを押す。ブザー及び白ランプ（主審の白旗に呼応するもの）は本来補助員の業務だが、本大会では補助員が足りないとのことで、審判が行った。

・Finish Tower にいる人々：スタート方向から順に、FISA IOT の机（審判委員長 Mr. Patrick Rombaut と Mr. Mike Williams）、階段状の台（審判 2 名 + 補助員 2 名）、計時の机 4 台（Swiss Timing 社 6 名（PC 13 台） + 補助員 1 名）という配置。



(5) 監視

・審判の構成：監視長 (Responsible CC)、出艇監視 (CC Out pontoon)、帰艇監視 (CC In pontoon)、艇計量 (CC Boat Weighing)、選手計量 (CC Athlete Weighing) で構成され、監視長は受付テント (Bow Number を配布する場所) に位置し監視部署全体をコントロールしていた。

(6) 艇計量・選手計量

・艇計量の業務：計量器は前後 2 台に分かれており、それぞれに折り畳み式のウマ (Trestle) を乗せた状態でゼロに設定してある。艇は戸田のように仮置き用のウマに一度乗せて装備品を外したりするのではなく、計量器上のウマに直接乗せ、外すものはそれから外す。計量場が混んできても、艇を担いだまま待たせていた。選手たちは何とか耐えて待っていたが、日本の大会で同様のことをしたら、体力的に耐えられない (待てない) 選手が出るのではないかと思った。

・選手計量：本大会は全 18 種目中、軽量級 6 種目、舵手付 2 種目があり選手計量を行っていた。(計量を行っているところを見るタイミングがなく詳細は不明だが、実質 NTO のみで対応していた模様。)

<艇計量>

(ウマの脚がはまるデザイン)



(手前から入り奥から出る)



(高さ調節の為のセメント細工)



<艇計量>

(デジタル表示器とプリンター)



(担いだまま待たせる)



<選手計量>

(秤とプリンター)

(7) 出艇監視

・出艇監視の業務：艇が出艇の為にポンツーンに向かってくるのを見たら、審判が近付いてクルーに声をかけ、艇を担がせた状態で立ち止まらせ、①バウボール、②シューズ、③広告の順に確認する。並行して NTO が④フォトブックとの照合、⑤バウナンバー・GPS の取付けを行う。1 艇につき 15~20 秒程度で終わらせていた。

① バウボールが確実に取り付けられているかどうかを確認する。一番「強引に」に行っていた某審判の場合、バウボールを片手で「鷲掴み」にして数回揺さぶっていたが、これは行き過ぎだったようで、日本と同様、審判が艇を壊さないよう注意が必要であるとのことであった。

- ② シューズは、まずシューズの踵を引っ張りヒールロープが確実に結ばれているかを確認。日本と比べると多少強めに引っ張る審判が多かった。次に左右のシューズのマジックテープに渡してある紐があるかどうか、それを引っ張ってマジックテープが 1 回で剥がれるかを確認する。左右に渡してある紐がついていないクルーに対し、「昨日つけると言っていたのに何故つけていない」と厳しく迫り、コーチが持っていたネックストラップか何かを急遽付けさせていた例もあった。
- ③ 広告は、艇を担いだままだと艇の外側しか見えない為、艇の下を潜りながら内側を確認する審判もいた。広告のサイズをメジャー等で測定する様子は見られなかった。FISA 審判委員会の ITO (Mr.Vladimir 等) がラックに置いてある艇を見て回り、事前に注意することが多いとのこと。
- ④ フォトブックはタブレット端末ではなく旧来のハードコピー方式だった。欧州のベテラン審判曰く、スイス Lucerne でタブレットを使ったことがあったが、晴天の日は見えにくくて困ったと。
- ⑤ バウナンバーと GPS は一体型の時代があったが、現在は分割型が通常とのこと。GPS には Swiss Timing 社の Rowing Tracking System という商品名が書いてあった。

<ヒールロープ確認>



<Quick Release の確認>



<Photo Book>



<GPS 充電テント>



<GPS 取付け作業>



<GPS・バウナンバー>

## (8) 帰艇監視

・帰艇監視の業務：帰艇桟橋近くで待機し、①帰艇クルーの記録、②艇計量対象クルーの誘導、を行う。

- ① 帰艇クルーの記録で注意すべき点は、ポンツーンでコーチから飲料を受け取ってから（又は一旦ポンツーンに上がり腰を伸ばしてから）再度クールダウンに向かうクルーがいて紛らわしいこと。（再度クールダウンに向かうクルーについては、NTO にバウナンバーを外さないように指導をしていたが、徹底されていなかった模様。）欧州のベテラン審判と 2 名で記録したが、結果として 2 名とも記録が漏れてしまったクルーがいくつかあった。
- ② 艇計量対象クルーにはポンツーンから陸上に上がる辺りで「Boat Weighing !」と声を掛け、誘導係の NTO に引き渡した。誘導係の NTO は 3 人いたが、5 分間隔の大会なのでもう一人いればと思う場面があった。レース結果（着順等）に基づき対象クルーを決める場合は、判定から監視にタイムリーに連絡が入らず、混乱する場面が多々あった。

## 5. 総括

### (1) 出艇監視

初の FISA 主催大会での審判ということで、出艇監視における広告等の確認がどれほど厳格に行われるのか興味があり、不安もあったが、実際には審判ではない ITO が艇置場のラック上にある艇を見て回る時に確認をできてしまっているとのことであった。結果として出艇監視に要する時間は各艇 15～20 秒程度であった。日本国内の大会（国体など）では艇を水に浮かべてからフォトブックとの照合、シューズ等装備品の確認を行うが、国際大会では陸上からポンツーンに乗り移る直前にクルーを止め、クルーに艇を担がせたまま確認を行うので、クルーへの負担を最小限にする為にも短時間で終わらせる必要があるのだろうと思った。（ポンツーンはたださえ混み合うので、審判員と GPS を取り付けるボランティアは極力ポンツーンに乗らないようにしているとのこと。）

### (2) 審判の個人差

出艇監視での「バウボール驚掴み」を見て、正直言って驚いた。「あれは良くない」と暗に言っている別の審判がいたことも驚きだった。日本では審判によって号令・動作に差がないようにと心掛け、実践しているが、国際審判の場合は「結果が重要であり、過程に個人差があっても良い」という風を感じた。今後の国際審判経験の中で、自分自身の号令・動作と異なることをしている審判員がいたら、何故そうするのかを尋ねることにより疑問を疑問のまま終わらせないようにしたい。

### (3) 総括

今回、初の FISA 主催大会での審判業務であったが、得るものが多く、今後、審判業務を更に極めて行きたいという気持ちになった。この報告書を読んだ諸先輩、審判仲間、ボート仲間から忌憚のないご感想、ご意見、ご指導を頂ければと思う。

#### <Jury・ITO 集合写真>

(写真に写らず)

Dragana
PUSONJIC
SRB 1429



First name / Last name  
/ Country / License No.  
(写真左から順に)

Vladimir	Simon	Daisuke	Maura	Patrick	Ivo	Luca	Freek	Diego	Christopher	Anis
MEGLIC	WALKER	NAKAJIMA	SILETTO	ROMBAUT	KLEMES	BORGIOLI	MEIJERS	CEJAS	ANTON	BEN KHEDHER
SLO (ITO)	NZL 1554	JAP 1627	ITA 1737	BEL (ITO)	CZE 1209	ITA 1735	NED 1543	ARG 1702	GBR 1568	TUN 1369
Vincenzo	Danilo	Valeria	Marie-Laurence	Peter	Manola	Debbie	Fabio	Mladen		
VILLARI	GATTONI	PESSINA	COPIE	VAN BELLE	MARINAI	SAGE	BOLCIC	KOSTIC		
ITA 1256 (Po)	ITA 1485	ITA 1736	FRA 1481	BEL 1244	ITA 1486	CAN 1609	ITA (ITO)	CRO 1033		

以上